2023 年度 三大学における相互評価結果について

学 長　高橋 徳行
（内部質保証委員会委員長）

本学は、毎年の自己点検・評価の信頼性と妥当性を高め、内部質保証システムの一層の充実へつなげていくため、旧制高等学校をルーツに持つリベラルアーツ五学園（学習院大学、成蹊大学、成城大学、武蔵大学、甲南大学）の中で大学規模が近く同系列分野の学部を設置する成城大学との相互評価を 2016 年度より開始しました。さらに、2023 年度からは甲南大学が加わり、武蔵大学、成城大学、甲南大学の三大学における相互評価として実施しています。

今年度は、各大学が評価を希望する取組について、提出資料に基づく書面評価や対面での意見交換を行い、本学は、全学（学部全体・大学院全体）のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びアドミッション・ポリシー（以下、3ポリシーと称す。）について、他の 2 大学より別紙のような評価を受けました。

内部質保証委員会では今回の評価結果を踏まえ、次年度以降に全学及び各学部・研究科の3ポリシーの点検を実施する予定です。

本学では、今後も引き続き、学園建学の「三理想」を踏まえ、「入口」（入学者選抜）から「出口」（学位授与）まで、この3ポリシーに基づく一貫性のある大学教育を施し、自己点検・評価を重ね絶えず改善に取り組んでまいります。

以 上

武蔵大学に対する相互評価結果

Ⅰ 総 評

武蔵大学は、学園建学の「三理想」に基づき、「リベラルアーツ＆サイエンス教育によって総合知・専門知・他者と協働する力・実践力をバランスよく身につけ、身近な場所での知的探究と実践にたゆまず取り組み、世界に雄飛して人的交流、組織的・地域的・地球的な課題の解決に貢献しうるグローバルリーダーの養成」という教育の基本目標を定め、併せて、これを大学のビジョンとし、大学及び大学院の3つのポリシー（ディプロマ・ポリシー（以下「DP」という。）、カリキュラム・ポリシー（以下「CP」という。）、アドミッション・ポリシー（以下「AP」という。））を設定し、内部質保証のための枠組みを用意している。

大学については、DP において学園建学の「三理想」及び大学のビジョンでもある教育の基本目標に対応して学生が身につけるべき資質・能力が明示されており、CP及びAPは DP との一貫性も概ね確保されている。

大学院については、3つのポリシーの一貫性が確保されるよう構成されているが、DP と学園建学の「三理想」及び大学のビジョンでもある教育の基本目標との対応関係を一層明確にすることにより、内部質保証がより効果的に行えるようになるものと期待される。

Ⅱ 概 評

① 大学の理念・目的とポリシーは整合しているか。

学園建学の「三理想」に基づき大学の教育の基本目標が定められ、3つのポリシーはこれらと概ね整合する形で設定されている。なお、大学院に関しては、大学の理念・目的とDPとの対応関係を一層明確にすることが期待される。

② 3 つのポリシーに一貫性があるか。

大学、大学院とも、DPにおいて修得すべき知識、技能、態度等を示し、そのために必要となる教育課程の編成及び実施の方針をCPにおいて定め、 入学者に求める学力水準、能力等をAPにおいて示しており、3つのポリシーには概ね一貫性が確保されている。

③ 学生にとって分かりやすい内容になっているか。

大学、大学院とも、DP、CP、APが対応する形で整備されていることから、概ね学生にとって分かりやすい内容となっているものと考えられるが、一層学生にとってわかりやすく整理する余地があるものと考えられる。

④ DP は学生を主体として卒業・修了までに学生が身につけるべき資質・能力が明確になっているか。

大学の DP は、学園建学の「三理想」に基づく大学の教育の基本目標を踏まえて、学生が卒業までに身につけるべき知識、能力、態度等が明確かつ具体性を備えた内容となっている。また、期待される卒業生像が十分に示されているとともに、進路先等社会における顕在・潜在ニーズに係る記述が含まれたものとなっている。

他方、大学院の DP については、修了までに学生が身につけるべき資質・能力について研究科の DP と関連付ける形で具体的に設けられているが、学園建学の「三理想」及び大学の教育の基本目標との関連においてどのような事柄を身につけることが求められるのかについてはより明確にすることが期待される。

⑤ DP は学修成果の把握・検証の観点から、定量的・定性的な評価が可能になっているか。

大学は、学園建学の「三理想」及び教育の基本目標に基づき、学位を授与する学生に求める知識、能力、態度についてDPⅠ～5を定め、これらの学修成果についてどのように評価するかをCPで示し、さらにアセスメント・ポリシーも設けて、定量的ないし定性的な評価が可能となっているが、DP5についてはどのように評価するのかを明示することが期待される。

大学院の博士前期課程についてはDPⅠ～4を、博士後期課程についてはDPⅠ～5を定め、これらの学修成果についてどのように評価するかをCPで示し、さらにアセスメント・ポリシーも設けて把握する体制となっている。

⑥ CP は DP に掲げている資質・能力等を身につけることが可能な科目配置や授業形態を用いていることが明確か。

大学の CP は、学園建学の「三理想」及び大学の教育の基本目標と DP に基づき、教育課程の体系、教育内容、教育課程を構成する授業科目区分、授業形態など、教育についての基本的な考え方が明示されている。また、CPⅠ～9においてより具体的な記述がされることで学生にも分かりやすい表記となるよう配慮されているが、CP4とCP5の順番、DP4及びDP5に対応するCPの明確化など、より分かりやすいものにする余地があるものと考えられる。

大学院についても、学園建学の「三理想」及び大学の教育の基本目標と DP に基づき、博士前期課程、博士後期課程でそれぞれCPが設けられている。博士前期課程ではCPⅠ～4において、DPⅠ～4に掲げる資質・能力を身につけるための教育についての基本的な考え方が示されている。博士後期課程ではDPⅠ～5に対応するものとしてCPⅠ～3が設けられているが、DP5についてどのCPが対応するのかについて明確にすることが求められる。

⑦ CP はどのように学修成果を評価するのか具体的になっているか。

大学のCPには、「学修成果を適切に評価するためにGPA制度を厳格に運用する」ことを明示している。また、「各学部・学科において、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性などを複眼的・総合的に評価する方法を定める」ことも明示し、別途「武蔵大学　アセスメント・ポリシー」を定め、教育成果を機関レベル（大学全体）、課程レベル（学部・学科・コース）、科目レベル（各授

業）の三つのレベルで測定・評価することとし、具体的な検証方法を掲げている。

大学院の CP には、博士前期課程に関しては、「知識、技能、発信力、表現力等の修得に関しては、修士論文または特定課題研究の審査及び最終試験にて評価する」「主体性や協働する力等に関しては、研究成果の発表等によって把握する」こと、博士後期課程に関しては、「知識、技能、発信力、表現力等の修得に関しては、博士論文の審査及び最終試験にて評価する」ことを明示するとともに、別途「武蔵大学大学院　アセスメント・ポリシー」を定め、三つのレベルでの具体的な検証方法を掲げている。

⑧ AP は受け入れる学生に求める人物像、学習成果（学力の 3 要素）について具体的に明示されているか。

大学のAPは、学園建学の「三理想」及び大学の「教育の基本目標」などの教育理念や教育目標を理解していることや、グローバルリーダーとして成長しようとする意欲を求めることなどについて、DP及びCPと整合する形で整備され、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性など、求める学力の3要素についてもAP I ～5 において具体的に示されている。

大学院についても、受け入れる学生に求める知識や意欲等について、博士前期課程、博士後期課程それぞれにおいてDP及びCPと整合する形で明示されている。

⑨ AP の各種入学者選抜方式において、具体的な評価方法が明示されているか

大学では、一般選抜、総合型選抜、学校推薦型選抜の各入学者選抜方式について、学力の要素をどのように評価するのか具体的に示されており、社会人入試、帰国生徒対象入試、学士入学試験、外国人学生特別入試については各学部のAPにリンクする形で示されているが、一部記述において一層分かりやすい表記とすることが望まれる。

大学院については、筆記試験、口述試験においてどのような学力を測るか示されており、それぞれの研究科の入学者選抜方式における具体的評価方法は各研究科に委ねられている。

以上

武蔵大学に対する相互評価結果

Ⅰ 総 評

武蔵大学は、学園建学の「三理想」に基づき、「リベラルアーツ&サイエンス」の理念に従って、広範かつ深遠な総合知と特定の専門知ならびに他者と協働する力・実践力を育てることを教育の基本目標とした人材養成を行っている。それらは、大学全体の 3 つのポリシーに適切に整合され、「ゼミの武蔵」に象徴される少人数教育やグローバルリーダーを育む学びの特徴や個性が示されている。他方、大学院の 3 つのポリシーの連関性や AP の各種評価方法の具現化に関してはもう少し明確化する余地があり、それにより貴学の個性・特徴がより際立つと考える。

Ⅱ 概 評

① 大学の理念・目的とポリシーは整合しているか。

学園建学の「三理想」に基づき、教育の基本目標（人材養成の目的）で謳われている「リベラルアーツ&サイエンス教育」「グローバルリーダーの養成」と連関して、大学の 3 つのポリシーに適切に整合されている。

他方、大学院のディプロマ・ポリシー（以下 DP と略す）には、「グローバルリーダー」の観点が読み取りにくい内容となっているため、追記した方が良いと考える。

② 3 つのポリシーに一貫性があるか。

大学及び大学院の 3 つのポリシーは、学園建学の三理想及び教育の基本方針に基づき、適切に設定されており、各学部・研究科の 3 つのポリシーとの関連性も明瞭で一貫性がある。

③ 学生にとって分かりやすい内容になっているか。

学園建学の「三理想」に基づき、大学のビジョン及び教育理念の実現に向け、どのような学生を受け入れ、求める能力をどのようなプログラムを通じて育成するかという観点が明確に示されており、入学希望者にとって分かりやすい内容になっている。

他方、大学全体のカリキュラム・ポリシー（以下 CP と略す）において、学修成果の評価の在り方が示されている【CP6・CP7】を項番の最後に配置することで、学修方法・学修過程を示す内容と学修成果の評価の在り方を一括りで明示できるため、より分かりやすい内容になると考える。

④ DP は学生を主体として卒業・修了までに学生が身につけるべき資質・能力が明確になっているか。

大学全体の DP は、学生を主体として「何ができるようになるか」に力点を置き、学生が身につけるべき資質・能力を明確に示されている。

他方、大学院の DP は、前期課程・後期課程ともに教育の基本目標に掲げられている、「グロー

バル」の観点が読み取りにくい内容となっており、後期課程においては、「社会課題」や「他者と協働する力」の観点が読み取りにくい内容となっているため、追記した方が良いと考える。

⑤ DP は学修成果の把握・検証の観点から、定量的・定性的な評価が可能になっているか。

DP Ⅰ～5に含まれる能力を、アセスメントポリシーに基づいた検証に加えて、学生調査の項目と DP の各項目の対応関係を表した集計結果を検証に活用されており、定量的・定性的な評価が可能になっている。今後は上記に加えて、客観的な視点からの検証の取組みが期待される。

⑥ カリキュラム・ポリシー（以下 CP と略す）は DP に掲げている資質・能力等を身につけることが可能な科目配置や授業形態を用いていることが明確か

大学全体の CP は、DP を踏まえた教育課程編成、当該教育課程における学修方法・学修過程、学修成果の評価の在り方が具体的に示されている。

他方、大学院全体の CP において、「グローバル」や「社会課題」に関する観点や、博士後期課程において、【DP5】の「問題解決に向けて主体的に取り組む力」に関する観点が読み取りにくい内容となっているため、追記した方が良いと考える。また、大学院前期課程の【CP4】の「研究成果の発表等」について、より具体的な教育課程の編成を明示すると良いと考える。

⑦ CP はどのように学修成果を評価するのか具体的になっているか。

CP において明示されている学修方法・学修過程を基に、どのように学修成果を評価するのか、基本的な評価方針が示されている。

他方、具体的な評価方法は各学部・研究科で定められており、共通の評価方法として具体的な内容があれば追記すると良いと考える。

⑧ アドミッション・ポリシー（以下 AP と略す）は受け入れる学生に求める人物像、学習成果（学力の 3 要素）について具体的に明示されているか。

大学全体の AP は、DP 及び CP に基づく教育内容を踏まえ、学力の 3 要素を念頭に置いた、貴大学の求める人物像が具体的に明示されている。

他方、大学院全体の AP は、「社会課題に対する関心」や「他者と協働する力」の観点が読み取りにくい内容となっているため、DP 及び CP と連関した内容を追記した方が良いと考える。

⑨ AP の各種入学者選抜方式において、 具体的な評価方法が明示されているか。

AP の各種入学者選抜方式において、各入試形態で特に重視する項目として、要点を絞って分かりやすく明示されている。求める資質・能力と具体的な評価の方法との対応関係について、表を作成することなどを通じて工夫を加えることにより一層分かりやすい表記になると考える。

以上